

SOTO禅インターナショナル

発行日 1996年4月15日 発行人 松永然道 編集責任者 福島伸悦
 発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒361埼玉県行田市下中条1619-2
 Tel. 0485-57-0999 Fax. 0485-57-2347 振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

第 7 号



南米イピラス仏心寺にて大竹明彦宗務総長、森嶺雄議員、ビッチ大樹師とメンバー

主な内容

巻頭 教化者育成のみち 駒沢大学総長 桜井秀雄
 特集 ブラジルの禅 南米イピラス仏心寺 ビッチ大樹
 海外インフォメーション
 ヨーロッパ ドイツ直心庵 中川正壽
 寄稿 独逸参禅レポート 鈴木徹宗
 北米 ペンシルバニア 平等山 ベナージュ大円

会員便り 手紙 森山太行
 寄稿 飯島尚之
 北米托鉢僧を招いて 原田道一
 総会案内
 新入会員 寄付者 SZI活動日誌
 SZIだより

教化者育成のみち

駒沢大学総長 桜井 秀雄



をつまらせている人人が、永平道元古仏の正法禅に憩いの場を求めようとし、その道を模索しているからには、海外開教と宗教の国際交流が、どんなに大事なことが贅言を要しないことであり、現に開教師として従事されている各位に深い敬意を表してやみません。

ただ問題は、ここでも依然として展手の慈念をもった後継者の養成ということが残っているということである。そして弁解がましいことであるが、駒沢大学内に附設された「曹洞宗教化研修所」の管理責任を荷い、且つ同所には海外開教課程も存しながら、十全な機能を果たしていないことは、正に慙愧の念に堪えないところである。

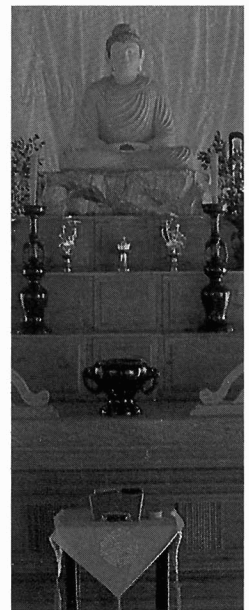
宗門における危機的状况を生み出した最大の原因は、肉系相続による世襲制であるという。それは寺院を場とした僧侶の仕事と職業と見なす立場からのことである。しかし本来の宗侶とは何であらうか。確かに道元禪師も「人其家に生れ其道に入らば、先づ其の家業を修すべし」と示され、そして「今も出家人として便ち仏家に入り僧侶とならば須く其業を習ふべし」と求められる。

ただ僧侶の業とは、観無常を第一の用心とし、吾我を離れ知識に随い仏行を行ずることである。それは世間一般にいう如き職業であるまゝに、古仏の道にならば、限りない度衆生の願心を発することである。斯く思う時、よしんば宗門における海外布教が、移民邦人の心の支えとして始められたとしても、今や西欧的思辨と科学的な圧力に息

頃から海外で育ち、言語生活で何ら妨げを感じない、有能の心出家者を、国内の専門道場に暖かく迎え、身出家者として風儀を習い、併せて身心学道の道念者として法を嗣ぐ道を考案すべきであるという事である。それは現開教師と肉系であるか否とを問わない。けだし布教教化とは、終極的には教化者の身業説法こそ要（かなめ）だからである。

特別寄稿

ブラジルの禅



Ⅱイビラス仏心寺における環境教育プログラムⅡ

南米・イビラス仏心寺主任開教師 ビッチ大樹



一九九五年は日本とブラジルの親善百周年に当たり、ブラジル国民は様々なイベントを催しました。私達曹洞宗にとっても、南米に禅仏教が伝わってから四十年目に当たる記念すべき年であり、これを心からお祝い致しました。

ブラジルは世界的に見ても最も多くの日本人を受け入れ、保護してきた国であります。この移住には日本

文化のいろいろな局面もついてまわりました。例えば、一九五〇、六〇年代の野菜栽培の増大とブラジル国民の食生活の変化に伴い、日本文化はブラジルの農業に対して多大な影響を与えたのです。

しかし、仏教の理解ということに対しての日本文化の影響は極めて弱く、多くの日本人の子孫はキリスト教への改宗を余儀なくされました。また、一九五〇年代に高階禅師が来られ、南米総監部が設立された後も、日本仏教はブラジルで三〇

年以上も孤立していました。その間に、ブラジルを訪れた宗門の関係者や僧侶もごくわずかなものでした。

今までに行われた行事で印象深いのは、大本山永平寺の南沢監院老師を団長とした御一行が来られた新宮総監の葬儀が挙げられます。そして、その数年後の一九八九年の初めには檜崎一光老師の伝道訪問があり、日本とブラジルの禅を通しての友好関係は強くなり始めました。しかしながら、大変残念なことに、私達は四〇年もの間、禅師様をお待

ち受けしておりましたが、丹羽禅師様はご病気のため、そのご訪問は実現致しませんでした。

今日、ブラジルの仏教と日本の曹洞禅は極めて密接な関係にあると言えます。

南沢監院老師、また大本山永平寺侍局であった青山老師は近年幾度となくブラジルを訪問しておられます。

また、この度の南米別院本堂落慶法要には大竹宗務総長をお迎えしました。

私は、一九八三年にイビラス仏心寺の開教師として曹洞宗宗務庁の任命を受け、このブラジルという国へやってまいりま

した。ブラジルへ向かう、私を乗せた貨物船があとにした千葉県の港を、私はいまだによく思い出します。四八日間の航海の後、ブラジルに着いた私はキリスト教の伝統がある地域社会の中で、仏教者としての責任感からくる不安を感じていました。キリスト教の聖職者の多くがコミュニティで有益な活動に従事してい





たからなのです。私にとつての大きな問題は、仏教の原理に反しながら、自分本位的なイメージをいかに破壊していくかということでした。

金銭面では、小さなラン

プの燃料と必要最低限のものでをそろえるだけで精一杯ですから、その他に何か計画を立てるということは不可能でした。お寺に来る人々もごく僅かで、私はほとんどの時間一人で山に居り、

生活は原始的で孤独なものでした。時々、日本を離れるべきではなかった、私をここにたなぎとめるものは宗務庁からの任命だけである、などという思いも脳裏をよぎりましたが、とにかく五年間は続けてみようという決意しました。

私は、食物を生産する目的での野菜園の栽培は、植える、収穫するといったサイクルが非常に短く、また他の仕事に時間が取れなくなるため難しいと思いました。もし、このような計画に数年の年月をかけていたなら、作務の時間もこれにさいてしまい、これ以上の永続的な事業はできなかつたと思います。

そして、私達は当初のオーナーに見放されていた一四〇ヘクタールの土地に木を植え始めました。これらは、一九七四年に仏心寺が設立されてからずっと保存され、さらに今では動植物を守る

ことの重要性から環境保護地域として、政府の保護も受けております。日本の寺院や、日本庭園を思い浮かべながら私達もお寺のまわりの庭造りを始めましたが、あまりに大変なので本当の宮殿を造っているのではなにかと思つたほどでした。

そして、最も重要なのは、地方の学校の教師達が、生徒達に仏教徒のコミュニティーによって育てられた環境、生態、人間、活動などを観察させることによって、自ずから確立された環境教育のプログラムです。

今日では、イビラス仏心寺の環境教育プログラムは約一万人もの人々を一年ごとに受け入れ、その半数は学校に通う生徒であります。

私達が、このプログラムを通して伝えたいことは、

緑や動物や鳥などを絶滅から守るためにエネルギーを浪費することではありません。環境保護は私達の内部変革の結果でなくてはならないのです。そして、それはすべての生命の存在の恩恵を各々が回顧することからなる利益なのです。教育プログラムは生命に対する愛と、すべての物事における相關関係の仏教的理解に基づいています。それは道元禅師がなされたことであり、ブッダの教えであり、そしてその詳細は、永平寺の洗顔の方法に基づくものでもあるのです。

私は日本の曹洞禅が環境問題に取り組んでいることを非常にうれしく思います。

そしてこのような禅仏教の寄稿が知識、教えとなり、また長い間にわたる慣習をもたらしことを心より祈念しております。

(訳 事務局 大谷有為)

海外インフォメーション

ヨーロッパ

ドイツ直心庵一九九五年度活動報告

ドイツ直心庵開教師 中川正壽



ここに一九九五年

度の活動報告をいたします。

- 1、ミュンヘン直心庵、定期参禅会。
- 2、仏教ゼミナールハウス・エングルの接心。
- 3、仏教ゼミナールセンター・シャイプス（オーストリア）での接心。
- 4、仏教ゼミナールセンター・ヴァルトハウスでの接心。
- 5、ゼミナールセンター・ブレック（オーストリア）での接心。
- 6、デシマル系禅グループ（アーヘン市）での接心。
- 7、ベルリン仏教協会での週末参禅会。
- 8、ドイツ仏教連盟DBU創立四〇周年記念大会にパネラーとして講演。
- 9、ベトナム仏教寺院兼センター・プラムヴィレレッジでの研修滞在（フランス）。

二月四日より九日まで。のちドイツにて一週間同趣旨のコースに参加。

一九九五年度の回顧

ティク・ナット・ハーン師その人とセンターのあり方に感銘と示唆を受ける。

- 1、ハウスエングルにて多くの接心を指導したこと。
- 2、DBU四〇周年記念大会にチベット仏教系並びに上座仏教系に伍して禅を代表して講演したこと。またその折りに著名なチベット僧ゲイシנגawang師やドイツ上座仏教を代表するAyvakehema師、またオーストリア仏教協会会長GengroKoudella師、さらにDBUの中心メンバーと有益な交流ができたこと。
- 3、デシマル系グループでの接心指導を通して（一九九四、一九九五）デシマル系の雰囲気的一端を知り得たこと。

- またベルリンにはじめて出張して、ベルリン界隈の仏教グループの事情をより具体的に見聞したこと。
- 4、日本より鈴木徹宗師の三ヶ月滞在。

一九九六年度への展望

- 1、接心指導はHausEnglひとつに絞る。
- 2、ベトナム僧ThichNhat Hanh師のフランスでの拠点、PlumVillageに研修滞在をする。

- 3、ミュンヘン直心庵の活動は、来独中の小田元秀師と共同で指導してゆく。
- 4、直心庵の改造と拡張。

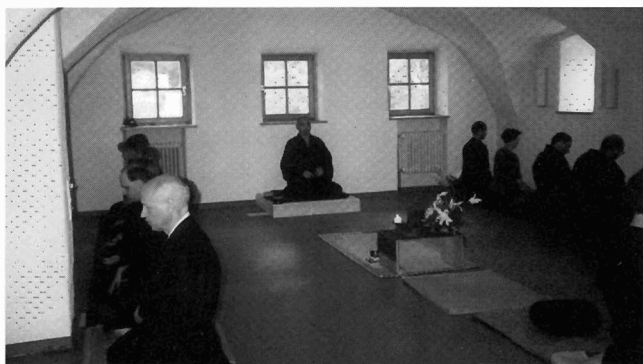
- ・隣の六〇平方メートルも賃借することとなった。毎月賃料約DM一〇〇〇追加出費。
- ・ここに日本の畳を敷き和室とする（約十五畳）。

- ・週末接心の宿泊休憩室とする。
- ・また談話室兼図書室とし、会員相互の親睦の場とする。

- ・お茶やお花また日本語教室を開き、文化活動の場として利用する。
- 5、在独日本人のための参禅会の継続と充実。

- 6、本格的な叢林生活を中心とする寺院建立のための生活規矩と活動内容のヴィジョンを詰める。

- また適当な物件探しの継続。



独墮参禅レポート

鈴木徹宗

ミュンヘン中央駅から地下鉄で北へ三つ目に、ヨゼフスキルヒェ駅があります。中川師を中心とする直心会の道場、直心庵はここから歩いて数分の所にあります。アパートの地下室を借りて禅堂にしてあります。ここでは週三回の参禅会と、月例の接心が行なわれており、中川師のドイツにおける活動の拠点となっています。師はこの直心庵の他に、ハウスエングル（ドイツ）、ブレック（オーストリア）、シャイプス（〃）等のゼミナールハウスで、定期的に接心を指導しておられます。参禅者はドイツ国内に限らず、ヨーロッパ各地からも訪れています。今

回は直心庵での参禅会、接心の他に、ハウスエングル及びシャイプスにおける接心に参加することができました。

ミュンヘンから東へ列車で一時間程でエーゲンフェルデン駅に着きます。ここから車で二〇分の所にゼミナールハウス「エングル」があります。このあたり

一帯、麦畑や牧草地で、農家がポツポツと点在しています。「エングル」も元は古い農家であったものを、改造や増築をしながら徐々に整備されてきたものです。禅堂と広間と、宿泊の為のいくつかの部屋を備えたこのゼミナールハウスは、その名が示すように、様々なグループに利用されるゼミナール施設です。禅堂とは言っても単があるわけではなく、一つの広いホールになっており、各種ゼミナールの目的に応じて利用されます。ここでは毎年夏冬それぞれ二週間、中川師の指導のもとに接心が行なわれています。今回私が参加した夏の接心は七月二日から十五日まで行なわれ、この間に次の三つのコースが用意されました。

○接心A 二日〜七日

○入門接心 七日〜九日

○接心B 九日〜十五日

接心Bはかなり坐禅に慣れた人を対象としていて、一炷四十五分で一日十三炷です。このう



最初と最後の坐禅は自由参加です。接心Aは坐禅の時間も回数もこれより少く、一炷三〇分または四〇分で一、二炷です。このうち最初と最後、及び午後の坐禅の一部が自由参加となっています。入門接心は、初めて坐禅をする人を対象としています。

続いてシャイプスにおける接心が七月二十二日から二十九日まで、接心Aのレベルで行なわれました。

シャイプスは、ミュンヘンからウィーンに向けて約三時間、

ベネディクト派の僧院で有名なメルクの一つ手前、ポツハルム駅でローカル線に乗り替えて南へさらに四〇分程の所にあります。無人の小さな駅で、前もって車掌に告げておかないと通過されてしまいます。丁度、ウィーンとリンツの真ん中、やや南に位置します。これもエンゲルと同様、周囲は畑と牧場と森に囲まれていて、近くの丘からは、起伏に富んだ美しい自然が一望できます。

各接心の参加者は二〇名、二十五名程で、約三分の一は女性でした。内容は、坐禅、経行、誦経、提唱、作務、飯台、行茶等日本国内と大差なく、一部西欧人向けにアレンジされてはいるものの、特に異和感もなく、彼の地の人達と共に極めて自然に務めることができました。

何よりも感心したのは、皆、実に熱心に坐禅するということでした。これは中川師の指導によるところが非常に大きいのですが、彼等の坐禅に対する姿勢は真剣そのもので、私の方が皆に引き込まれてしまったようでした。



西欧人は足を組んだり正座したりするのはとても苦手です。結跏趺坐のできる人は極めて稀で、ヨーガや空手などを経験したところのある、ほんの一部の人に限定されています。ほとんどの人は半跏趺坐で、これも彼等にとってはたいへんな苦痛を伴うようでした。

また、接心の期間中、中川師は個人面談の時間を設け、希望する参禅者との対話を行なっておられます。この際、師の話によりますと、ありとあらゆる類の悩みや問題を持ち込まれるそうです。私が冗談に「それでは

まるで何でも屋さんですね」と話すと、師は真剣に「その通りです」と言われました。

ところで、ヨーロッパには「マイスター」と呼ばれる宗教指導者が数多くいて、それぞれグループを作って活動しています。中川師も西欧の人々から見れば、このような多数のマイスターの一人にすぎないわけです。ですから師の接心や参禅会に参加する西欧人は、全体から見れば「氷山の一角」とも言えない程の、極めて僅かな数にすぎません。しかし、この極めて僅かということが「縁」というものの不思議さと尊さを言い尽していると思います。道元禅師の教えに触れ、只管打坐を実践するという千載一遇とも言えるべき機会がこの接心です。出会いを大切に、その都度親切に、正しく指導することが何よりも重要であり、中川師は十数年に亘ってまさにこのことを実践してこられたのです。今回初めてその現場を目のあたりにして私は、仏法者というものは常にその原点に、即ち純粹で普遍的な地点に立返らねばならないというこ

とを、改めて強く感じました。最後に、この様な貴重は機会を与えて下さった中川師並び直心会の皆様に心から感謝致します。

一九九五年五月十五日より

八月十三日まで

ゼミナルハウス・エンゲル

七月二日より七月十五日まで

仏教センター・シャイプス

七月二十二日より

七月二十九日まで



北米 ペンシルベニア便り



ベナー・ジュ大円師

会報第四号のクローズアップ・コーナーで紹介したペンシルベニア平等山禪堂主任開教師・ベナー・ジュ大円師より近況が報告された。大円師は二十三年間の日本

の生活、そして十一年間の僧堂生活を終え、一九九〇年、北米ペンシルベニアで道元禪師の教えを広められている。特に、教師活動に力を入れられ、いくつもの刑務所を巡回している。そして、軽犯罪者から終身刑に至るまでの受刑者に坐禅の指導をしている。アメリカ政府が積極的に坐禅を奨励しているとのことである。この度、「TRICYCLE」という雑誌に連載されている刑務所での坐禅プラクティスの劇画を送ってくださった。タイトルは「ZEN KARMICS」といって、最初は、「GATEWAY JOURNAL」という受刑者の人たちのための雑誌に連載されたものである。内容は、坐禅の仕方から心構えなどが描かれている。



会員だより



元南米開教総監

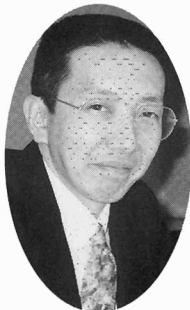
森 山 大 行

昨年九月、お陰様をもちまして仏心寺本堂落慶法要円成し、大任を果たすことができました。南米総監在任中は多大なご支援をいただきました。その後、十月よりフランス、スウェーデン、ブラジル、ウルガイ、アルゼンチン、チリを接心巡歴し、三月末帰国致しました。南米の禅仏教も躍動しはじめました。これから大きく成長することを実感しました。国境を越えた坐禅指導に微力ながら尽力して参りたいと存じます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

会員寄稿

「人間もこの地球上で生かされている」

東京都中野 宗清寺副住職



〔中野区環境にやさしいまちづくり指針推進会議〕委員

飯 島 尚 之

大宇宙空間に浮かぶ「地球」の誕生から現在までの歴史という時空スケールから考えると、人類の生存などは、ほんのわずかなものでしかありません。「地球が危ない」とよく言われますが、それは間違いで、人類の生存こそが危ないのだということも承知してい

ますが、未来永劫に発展しつづける社会などあるはずがありません。

そんななかで「環境に配慮したくらしをしよう」とか「循環型の社会を築こう」ということがいわれているわけですから、あるいみで滑稽なこともかもしれません。しかし、人として生まれた以上、未来永劫などというおこがましいことは言わなくても、せめて子や孫の時代ぐらいまでは人間らしく健康に暮らせるような、そんな環境を残してやりたいとおもうのが、人として当たり前の感覚ではないでしょうか。

そのために、「人間もこの地球上で生かされている。」というような視野のもと、環境問題が、ある一面で宗祖の教えを再び学び次世代に伝えるよい機会として受け止め、より一層地域社会に貢献できる「お寺づくり」に具体的に役立てられればと思います。

国内インフォメーション

北米の托鉢僧をお招きして

「地球に感謝する集い」

北海道に住むある作家が、自然を考えるシンポジウムの中で「共生とは共に利益を得て共に生きることである。だが人間は自然を必要とするが自然は人間を必要としない。故に共生という関係は成立しない。むしろ人間は自然に寄生している。自然と人間は、対等ではない。「自然にやさしい」というが、それは人間の片思いである。」と発言している。

アイヌは山菜を採る時、山の神に「衣服の一部である山菜を分け

てください」と祈り、必要な量だけ採って、決して採りつくしはしないというのが身についているそうです。

人々が同じ地球に住んでいながら、争い、殺し、憎しみ、虐待する行為が繰り返されるのは、人々のこのころのどこかに相手に対する、おごりや侮りがあるからだと考えます。

おごりや侮りが思い上がりにつながり相手を蔑んだり、はじめたり、傷つけたりすることになると

考えます。これは周りの生き物に接する人の態度にも同じことが見られます。私達人間は地球に感謝することから始めましょう。謙虚な気持ちで宇宙の苦悩の星、地球からの痛みのメッセージを聴く態度を磨きましょう。

来年七回忌を迎える、北米の開教師片桐大忍老師によって蒔かれた種が、北米のミネソタに芽を出し、お弟子さん達が四国の瑞應寺僧堂に来て修行されました。永平寺の副貫首である瑞應寺の堂長、檜崎一光老師も、かつてミネソタの山奥のこの貧乏な仮小屋の寶鏡寺に招かれて、禅の指導をされました。檜崎老師は九州の熊本にある大智禪師の御開山の聖護寺を国際道場として開導されました。ここで三年間修行され、ミネソタの寶鏡寺を守っておられるのが、ワインコフ彰顯宗師です。

昨年九月に長崎の青眼寺の水町老師と拙僧が激励の思いを込め、現地ミネソタの寶鏡寺の安居（あんこ）という厳格な修行期間にお邪魔しました。この皆さんは、木を切り、山を掘って自分達で手作りの道場を建てつつあります。又日本各地を歩いて托鉢され、少しずつ、日本の皆さんと御縁を深めておられます。拙僧も、日本の各地に呼びかけ、雨漏りのテントに泊り僧堂に通う現況から、もう少し安らかな修行ができるよう、

ご支援をお願いし微力を尽くしています。

この度、飛驒の地へ、永くご修行の三人が北米ミネソタより托鉢に来られることになりました。

この機会に、丹生川文化ホールを使用して、皆様に御参加いただき、喜捨をいただき、講演会を開くことになりました。

山紫水明の飛驒高山においても、人間のおごりや侮りの心を捨てて、謙虚な気持ちで地球、大地、自然からの危険信号を聞き反省することが大切であります。

地球仏教は、海を越え、民族を越えて地球の苦しみ痛みを知り、大宇宙の大和楽の平和の願いに応えなければなりません。

ベトナムの禅僧で行動する仏教者ティク・ナット・ハン師は「地球の上を歩くことは奇蹟である」といわれます。

四国の詩人坂村真民さんは「尊いのは、足の裏である」と地球に毎朝額をつけて、世界平和を祈念されています。

托鉢を通して、釈迦の教えを実践されるミネソタの方々の御縁を大切に、ここに、飛驒托鉢講演会を開くことを発願しました。どうか賛同くださいます、喜捨をお願い申し上げます。

発起人 正宗寺住職 原田道一

ワインコフ彰顯師の

プロフィール



出生地 アメリカ合衆国

ミズリー州セントルイス

出生年月日 一九三九年六月十日

現在五十六才

「十三才の時カトリックの神学校に入学、カトリックの祭司になるため十二年間学び一九六五年祭司となる。三年間祭司を勤めた後、修道院を出、人間関係について学び修士号を所得、さらに、カンセラー教育について学び博士号を所得、以後心理学者として十年間を過ごす。

一九七六年アメリカで片桐大忍老師と出会い禅仏教を学び始め、ミネソタ禅メディアテーションセンターのメンバーとなる。

一九八五年片桐老師より出家得度を受け、一九八八年老師の法を継ぐ。(嗣法) 一九八九年日本に渡り、九二年まで三年間、檜崎一光老師の指導のもと、瑞應寺専門僧堂や聖護寺国際禅道場で修行、その後帰国し、現在ミネソタ州東南部、ミシシッピー川沿いの人里離れた谷にある宝鏡寺で、修行道場の設立にあたっている。

通訳 S Z I 事務局 黒柳博仁師
(天周院副住・曹洞宗海外振興協議会委員)

北米ミネソタ禅センター寶鏡寺建設
飛驒托鉢講演会

に感謝する集い

5月7日(火) 午後6時開場 午後7時開会
丹生川文化ホール

★大宇宙大和楽 坂村真民さんの平和祈りの真言 (真民さんもワシボールの支援者です)
托鉢講演 ★「西洋における禅フロンティア」 ZEN-FRONTIERS IN THE WEST 禅僧ワインコフ彰顯師 (ミネソタ寶鏡寺住持 原田道一 主任講師)
★世界民族楽器一弦の楽器「ビリンパウ」 演奏家 丸山祐一郎

全席自由席

托鉢献金1名2,000円 (入場券が付いています)

主催 ワシ・ボウル・ネットワーク・ミネソタ
大会顧問 三塚大法 事務局 原田道一

共催 正宗寺護持会、SOTO ZEN INTERNATIONAL
後援 明るい社会づくり推進協議会、善久寺護持会、慈雲寺護持会、飛驒有志寺院

献金受付、入場券等お申し込み・お問い合わせは
(事務局) 〒508-21 岐阜県大野郡丹生川村正宗寺内 代表 原田道一 TEL0577-78-1080

総会のご案内

諸君 春和の候、会員老宗師におかれましては益々ご清栄のことと拝察申し上げます。
さて、1996年度SZI（SOTO禅インターナショナル）総会を左記の通り開催するはこ
びとなりました。今回の総会は、会員の原田道一老師の正宗寺をお借りして行います。
老師の提唱する「ワン・ボウル・ネットワーク」運動を更に促進する意味において
「地球に感謝する集い」（P7参照）に協賛し、会員各位の研修と親睦、そして地元の方々
との交流も兼ねた新緑の飛騨高山での総会です。時節柄法務ご多端のことと存じます
が、万障お繰り合せの上ご出席くださいますようご案内申し上げます。 合掌

記

日程 1996年5月7日（火 仏滅）、8日（水 大安）
第1日目 5月7日 午後4時 受付 旅館 四反田（したんだ）ロビー
午後5時半 旅館にて夕食
午後7時 「地球に感謝する集い」参加 内容別紙参照
午後9時 懇親会
第2日目 5月8日 午前9時 総会 会場 正宗寺にて
午前11時 解散
総会議題 ①1995年度事業報告 ②1995年度決算報告 ③1996年度事業計画
④1996年度予算案 ⑤その他
総会会場 正宗寺 〒506-21 岐阜県大野郡丹生川村北方 ☎(0577)78-1080
宿泊 岐阜県大野郡丹生川村北方（高山駅から8キロ、正宗寺より徒歩3分）
観光旅館 四反田（したんだ）☎(0577)78-1143
会費 ￥12,000円（宿泊代、講演会入場料、懇親会費を含む）

ご参加される方は、5月1日までにSZI総会事務局 長野天周院内 黒柳博仁
☎(026)241-1679までお申し込み下さい。

一九九五年新入会員紹介

ご入会ありがとうございます。 （一九九五年四月～一九九六年三月まで）

赤松 利章 様	池田 好雄 様	茨木 兆雄 様	上村 映雄 様	梅沢 慈祥 様	栄住 寺 様	大西 泰信 様	大八木 春邦 様	小原 智司 様	黒田 征利 様	見性 院 様	小池 彭道 様	佐藤 道淳 様	嶋 秀正 様	しやじ 企画 様	慈眼 寺 様
東京都中野区	山形県東田川郡	長崎県佐世保市	東京都中野区	北海道深川市	静岡県掛川市	静岡県掛川市	静岡県掛川市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市
鈴木 道雄 様	竹内 博徳 様	日本交通公社 様	千代田文隆 様	東 栄 寺 様	中山 敬道 様	長岡 俊應 様	沼沢 幸元 様	蓮池 泰来 様	長谷川昭雄 様	花和 明雄 様	福島県宗所 様	福島県宗所 様	福島県宗所 様	福島県宗所 様	福島県宗所 様
秋田県南秋田郡	秋田県北葛飾郡	千代田区丸の内	埼玉県羽生市	愛媛県松山市	京都府久世郡	青森県下北郡	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市	山形県鶴岡市
茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市	茨城県日立市

特別寄付者

年会費以外に特別にご寄付を頂
いた方々ご支援ありがとうございます。
ます。

二十万円	山本 現雄 様
五万円	黒田 俊雄 様
二万五千元	松永 然道 様
二万円	小笠原隆元 様
二万円	棟方 清充 様
二万円	来馬 規雄 様
一万五千元	藤川 享胤 様
一万円	小島 孝尋 様
一万円	茨木 兆輝 様
一万円	見性 院 様
一万円	龍心 寺 様
五千円	東 栄 寺 様
四千三百円	永住 寺 様

SZI活動日誌

（一九九五年十二月～三月）

一九九五年十二月一日（金）
会報六号発行

一九九五年十二月十五日（金）
役員会 東京グランドホテル

*①SZI活動方針骨子②一九
九六年事業計画&予算③マウ
イ満徳寺九〇周年ツアー④P
Rパンフ作成について

一九九六年一月十二日（金）
事務局会 巣鴨・泰宗寺

SZI便り

新年度会費納入のお願い

一九九六年度（平成八年度）の
年会費一万円を左記の郵便口座
にお振込み下さい。

郵便口座名義
SOTO禅インターナショナル
口座番号
〇〇一〇〇一六六一一九五

仏教東漸100年への虹（かけはし）

マウイ満徳寺創立90周年記念法要
企画 SOTO禅インターナショナル
日程 一九九六年（平成八年）
十一月十五日～二十一日
（五泊七日）
旅行代金 二三八、〇〇〇円
（成田発、成田着）
募集人員 五〇名
（最少催行人員三十五名）
JTB添乗員全行程同行、
お申し込み・お問い合わせ
日本航空利用予定
☎〇三三三六一一〇六（飯島まで）

SZI主催

北米ロスアンゼルス禅宗寺七十五周年
慶讃法要参拝ツアー予告！
期日 平成九年四月十九日前後

現在会員数 一五三三名
会報発行部数 約三千部

（全国宗務所長、教区長、議員、会員他）
次回会報八号は、八月十五日発行予定



SZI会報はリサイクルペーパー
を使用しています。